

再検討に当たっての基本的考え方

平成 27 年 8 月 14 日  
新国立競技場整備計画  
再検討のための関係閣僚会議

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のメインスタジアムとなる新国立競技場整備計画の再検討に当たっては、国民・アスリートの声や与党からの提言を踏まえ、以下を基本的考え方として、今後具体的な検討を進めていくこととする。

- (1) 「アスリート第一」の考え方の下、世界の人々に感動を与える場とする。
- (2) その大前提の下で、できる限りコストを抑制し、現実的にベストな計画を策定する。このため、以下の方向性で検討する。
  - ・ 施設の機能は、原則として競技機能に限定
  - ・ 屋根は観客席の上部のみ
  - ・ 諸施設の水準は、オリンピック・パラリンピックのメインスタジアムとして適切に設定
- (3) 大会に間に合うよう、平成32年(2020年)春までに確実に完成させる。整備期間を極力圧縮するため、設計・施工を一貫して行う方式を採用する。
- (4) アスリートや国民の声をよく聴き、計画の決定及び進捗のプロセスを透明化する。
- (5) 周辺地域の環境や景観等との調和を図るとともに、日本らしさに配慮する。
- (6) バリアフリー、安全安心、防災機能、地球環境、大会後の維持管理等を十分考慮する。
- (7) 内閣全体として責任をもって整備を進める。独立行政法人日本スポーツ振興センターによる整備プロセスを当会議で点検し、着実な実行を確保するとともに、新たに専門家による審査体制を構築する。
- (8) 大会後は、スタジアムを核として、周辺地域の整備と調和のとれた民間事業への移行を図る。今後、政府において計画を踏まえて、ビジネスプランの公募に向けた検討を早急に開始する。

なお、今月中を目途に、スタジアムの性能、工期、コストの上限等を示した新たな整備計画を策定し、これに基づき、9月初めを目途に公募型プロポーザル方式(設計交渉・施工タイプ)による公募を開始することとする。